

胎藏マンダラ虚空藏院の思想

八 田 幸 雄

現図虚空藏院は主尊虚空藏菩薩を中央に、向つて左に千手千眼観自在菩薩、向つて右に一百八臂金剛蔵王菩薩を配している。この主要尊の間に、上段に十波羅蜜菩薩、下段には共発意転法輪以下九尊を配している。尚この下方には蘇悉地院が設けられているが虚空藏院の構成と不可分の関係にあるので虚空藏院の一部として扱うことにする。本研究はこれ等の尊像がいかなる世界を象徴しようとするのかを明かにしたい。

現図虚空藏院は他の胎藏系虚空蔵部のマンダラと対比しても、また大日経に照らしても大きく異つてゐる。そのために諸説不同記や現図抄私等の解説書を見ても諸説が錯乱しており、そのまゝでは資料として使用出来ない。そこで先づ大日経の記載と、それに基いて発展的に構成された虚空蔵部の諸マンダラの配位を考察し、マンダラを貫く基本精神を把み、現図がどのような思想を生かし発展して構成したかを見ていこう。

(第1図) 現図虚空蔵院

千手千眼觀自在菩薩	檀	ハラムミツ	虚空藏菩薩	智	ハラムミツ	一百八臂金剛藏王菩薩
	戒	ハラムミツ		力	ハラムミツ	
	忍	ハラムミツ	共發意轉輪 生念處 忿怒鉤 不空鉤	願	ハラムミツ	
	精進	ハラムミツ		方便	ハラムミツ	
	般若	ハラムミツ	蘇婆呼 無垢逝	金剛針		
蘇悉地院						
	不空供養寶 孔雀王母 一髻羅刹 十一面	門	金剛明王 金剛將 金剛軍荼利 不空金剛			

大日経には虚空蔵部についてそれぞれ次のように記述されている。具縁品では漢訳、蔵訳ともに虚空蔵、虚空無垢、虚

（第2図）虚空蔵部のマンダラ

漢訳大日經疏	安 慧 清 浄 慧 虚 空 無 垢	虚 空 蔵	行 慧 虚 空 慧
Buddha- guhya の疏	虚 空 慧	虚 空 蔵	安 慧 行 慧 清 浄 慧
阿闍梨所伝 （主要尊のみ）	法 慧 虚 空 無 垢	虚 空 蔵	無 垢 光 清 浄 慧 虚 空 慧
胎藏圖像	安 慧 思 慧 （安 慧） 虚 空 慧 （虚 空 無 垢） （清 浄 慧）		出 現 智 （行 慧） 清 浄 慧 （虚 空 慧） 虚 空 無 垢 （虚 空 蔵）
撰大軌	蓮 花 印 安 慧 清 浄 慧 無 垢 慧	虚 空 蔵	執 杵 出 現 智 行 慧 虚 空 慧
広大軌	出 現 智 安 住 慧 清 浄 慧 無 垢	虚 空 蔵	執 蓮 華 杵 蓮 花 印 行 慧 虚 空 慧

空慧、清浄慧、行慧、安慧の六尊^{〔1〕}。普通真言蔵品は漢訳、蔵訳ともに具縁品と同様六尊の記述と真言が記されている^{〔3〕}。密印品では二訳の間に相違がある。漢訳では虚空蔵、虚空無垢は刀、虚空慧は輪、清浄慧は商佉、行慧は蓮華、安住慧は青蓮の象徴が示されている。蔵訳では虚空蔵を先に出し、改めて聖虚空蔵は劍印、虚空慧は輪印、清浄慧は商佉、行慧は蓮華、虚空無垢は青蓮、安慧は金剛の象徴を示している。劍の象徴するものは漢訳では虚空無垢、蔵訳では聖虚空蔵である。青蓮の象徴するものは漢訳では安住慧、蔵訳では虚空無

り、マンダラを解明する上に様々な憶説がなされたのである。しかし経の虚空蔵部の主要尊は虚空蔵を始め、虚空無垢、虚空慧、清浄慧、行慧、安慧の六尊であるということは言えよう。ではこれ等の主要六尊を胎藏系の虚空蔵部マンダラではどのように配したであろうか。

第二図の配位の仕方を見ると大きく分けて二つの配位がある。A系配位として Buddha-guhyā の疏に見られるように虚空蔵を中心として經典記載の順に虚空無垢と虚空慧を主尊の右に、清浄慧以下の尊を順次左に配している。これに対し

垢となる。金剛の象徴するものは蔵訳では安慧となっており、漢訳の青蓮華とは異っている。次に秘密品であるが漢蔵二訳とも密印品の記述と一つずれている。虚空蔵は大慧刀、虚空無垢は輪印、虚空慧は商佉、清浄慧は白蓮、行慧は車渠宝上青蓮、安慧は金剛蓮となっている。このように經典そのものに密印品と秘密品の記述の矛盾があり、また密印品の中でも漢蔵二訳の間に相違がある。このために虚空蔵部のマンダラが複雑にな

B系の配位（善無畏系）は各尊を左右に振り分ける方法である。例えば漢訳大日經疏では虚空無垢を右に、虚空慧を左に交互に配している。摂大軌、広大軌を始め阿闍梨所伝のマンダラもこのB系に属する。ところが問題は胎藏圖像である。胎藏圖像の尊像を見てもよい。虚空蔵は無く、虚空無垢は刀、虚空慧は輪、清淨慧は商法、思は蓮華、出現智は青蓮、安恵は金剛、執蓮花は蓮上三股を示している。これ等各尊のシンボルを經典に照らしてみると密印品の記述に準拠していることがわかる。若しこのシンボルをもとにして秘密品に準拠させるとすれば密印品の記述と一つずれて次の「」のようになる。

虚空無垢（虚空蔵）。虚空慧（虚空無垢）。清淨慧（虚空慧）。思（清淨慧）。出現智（行慧）。安慧（安慧）となる。このように胎藏圖像の尊名を秘密品に準拠させ、中央の瓶を虚空無垢（虚空蔵）と同一と見做せば胎藏圖像の配位は全くB系配位と一致する。このことから虚空蔵部の諸マンダラは外見上は様々な異図に展開されているようであるが本質的には經の基本線を逸脱するものではなく、經の主要六尊をもつて構成されたマンダラであることがわかる。したがって現図においてもこの基本線は貫かれているとみられるのである。

さてここで虚空蔵部の諸尊の形態を密印品によつて名づけるべきか又秘密品によつて決定すべきかの問題が生じて来た。

古来この密印品と秘密品の相違についてどのように説明して来たであろうか。そこで先づ大悲胎藏三昧耶マンダラを見てみよう。このマンダラは經の秘密品によつて各尊の象徴である三昧耶形を掲げている。しかし胎藏圖像と異なるために（）内の伝承がある。劍は虚空慧（疏の虚空蔵、胎藏圖像の虚空無垢）。輪は虚空淨（疏の虚空無垢、胎藏圖像の虚空慧）。輪（或本虚空意樂、胎藏圖像の清淨慧）。蓮は清淨慧（胎藏圖像の思）。車渠宝上の蓮は大慧（疏の行慧、胎藏圖像の出現智）。三股杵は妙慧（又善慧、疏の安慧、胎藏圖像の安慧）とある。このように大悲胎藏マンダラは大日經の秘密品に準拠して画かれている。そこで密印品の系統に準拠した胎藏圖像とは各尊の名称が異なるために（）に示したように伝承されている。次に胎藏法の印言をみてみよう。例えば虚空無垢の印は大慧刀の印。真言は經の漢訳密印品の真言を出している。《*Namaḥ samanta-buddhānām gaḡana-ananta-gocara svāhā*》以上の如く伝えられている。ところが玄法寺軌、青竜寺軌の真言は次の通りである。《*Namaḥ samanta-buddhānām (ham) gaḡana-ananta gocara svāhā*》となつて（ham）という種子が加えられている。この種子は普通真言藏品に見られる。その真言は次の通りである。《*Namaḥ samantabuddhanām ham*》である。虚空慧以下の印言も同様である。これらを見ると秘密印品と秘密品の矛盾を追求せずに双方を

とり入れる形で虚空藏部の尊は伝承されたことがわかる。

さて胎藏図像はその尊像を画くにあたつて不空罽索神変真言經の思想に基いたとされる。この經は虚空無垢は蓮華台上堅劍、虚空慧は輪、清淨慧は螺、行慧は開蓮華の象徴が示されている。これは大日經の密印品の記述と一致する。それ故一応密印品を基礎にして尊名を決定しなければならぬ。しかし大悲胎藏三昧耶マンドラを始め善無畏系の諸マンドラには秘密品に基くマンドラもあり、この両者を峻別していないために双方の立場を見ていかねばならぬ。今胎藏図像、大悲胎藏三昧耶マンドラ、密印品、秘密品を対照すれば次の通りとなる。

(胎藏図像)		(三昧耶マンドラ)		(密印品)		(秘密品)	
虚空無垢	虚空慧	刀	虚空藏	虚空藏	虚空藏	虚空藏	虚空藏
虚空慧	虚空淨	輪	虚空慧	虚空慧	虚空無垢	虚空無垢	虚空無垢
清淨慧	虚空慧	螺	清淨慧	虚空慧	清淨慧	清淨慧	清淨慧
思	清淨慧	蓮	行慧	清淨慧	清淨慧	清淨慧	清淨慧
出現智	大慧	青蓮	無垢	行慧	行慧	行慧	行慧
安慧	安慧	金剛	藏	安慧	安慧	安慧	安慧
執蓮華			藏	安慧	安慧	安慧	安慧

以上の関連から見て現図の尊像と対比してみよう。輪を持つ共発意転輪は秘密品の虚空無垢に担当し、螺貝を示す生念処は秘密品の虚空慧に相当する。忿怒鉤観自在、不空鉤観自

在は大日經記述の尊とは関係がない。これ等の尊は千手觀音の眷属である。虚空藏の向つて右側、蓮を持つ無垢逝、同じく蓮を持つ蘇婆呼、独股杵を持つ金剛針は密印品の清淨慧、行慧、安慧に相当する尊として代置せられたものとみることが出来る。しかし、共発意転輪 *saḥaittopāda dharmacakra* 生念処 *smṛtsajātya* はその名からしても秘密品の虚空無垢、虚空慧とは異なる尊であるし、また蘇婆呼は蘇悉地伽羅とともに陀羅尼集經では金剛藏の眷属として出る尊である。金剛藏の眷属と見做される尊には曼荼羅菩薩、金剛針、蘇悉地院に配されている金剛明王、金剛将、並に金剛軍荼利がある。現図では金剛藏は千手觀音との対応上、百八臂像が示されており、この眷属として以上の各尊が虚空藏院の金剛部の徳を示すものとして再編成されている。その中で經の精神を最もよく示す尊として虚空藏の近くに無垢逝、蘇婆呼、金剛針が配されたと考えられる。

今迄一応主尊虚空藏にはふれなかつたが現図では五仏の宝冠を著し、右手劍、左手蓮上の宝珠を示している。五仏宝冠は大日經を離れて金剛頂經の濃厚な思想の流入を認めるのである。更に現図虚空藏院の十波羅蜜と、千手觀音との関係を探れば金剛頂瑜伽千手千眼觀自在菩薩修行儀軌經(略して千手軌)が考えられる。胎藏法の十波羅蜜の印言はこの千手軌に基く。また現図抄私もこの儀軌を引用している。千手觀音

については複雑な問題を含むために詳細な論述は避けるが主要経軌の一つに補陀洛海会軌（大正・一〇六七）がある。この中に千手の眷属として忿怒鉤、不空鉤、十一面、一髻羅刹等の名がみられる。これは現図の虚空藏院や蘇悉地院に配されている尊である。このように見ると主尊虚空藏菩薩そのものが大日経を離れて、新しく両部の思想をとり入れた虚空藏菩薩として再生されている。尚蘇悉地院の不空金剛、不空供養宝は如意宝珠の徳を示す尊であるから虚空藏菩薩の眷属とみることが出来る。孔雀王母菩薩は密教では孔雀明王画像壇場儀軌に四臂像の記述が見られる。しかし現図の二臂像の経軌は見られない。

以上概観したところにより虚空藏院はかなり複雑な問題を含んでいた。先づ経の秘密品の虚空無垢以下の諸尊をそれぞれ共発意転輪、生念処、無垢逝、蘇婆呼、金剛針の諸尊で置き、新たな性格を附与して経の精神を示そうとした。しかしそれよりも重要なことは五仏宝冠の虚空藏と千手、金剛藏王との関係であり、更には中台の大日と千手、金剛藏との関係を明示しようとしている点である。また美術研究所報告「高尾マンダラ」（六八頁）の中で秋山光和氏、柳沢孝氏は千手観音と金剛藏王の形態を述べ、「その円形の光背の大きさが、千手観音像とも、また中台の中尊とも一致することは、胎藏界曼荼羅構成の原則の一端を示すものとして興味深い」と報

告されている。そこには仏蓮金の三部一体の円満した世界を示そうとした意図がうかがえる。虚空藏の象徴する般若空の世界は經典の一虚空藏部の世界を象徴するに止らず、空の無限的包括性の故に経の全体を貫く般若の精神をここに示したものとみることが出来る。大悲胎藏マンダラとは主体的には如来藏の開顕した世界を意味する。それは煩惱断尽の波羅蜜行であり、大悲に融即する空の世界である。この思想の体系を虚空藏と千手、金剛藏王、十波羅蜜。更には中台八葉院の大日との関連において示そうとし、経の虚空藏部の諸菩薩を新たな密教の諸尊をもつて代置き、文字通り融通無碍なる虚空の世界を表示したものと解される。

- | | | | | |
|----|-------|-----------|----------|---------------|
| 1 | 大正 | 18・八・c | 北京 | 5・二四七―一―二 |
| 2 | 大正 | 18・一四・a | 北京 | 5・虚空藏 二五〇―五―六 |
| | 無垢 | 二五一―五―五 | | |
| 3 | 大正 | 18・二六・b | 無垢以下は | 18・二八・a |
| 4 | 北京 | 5・二五九―三―三 | 無垢以下 | 二六〇―二―五 |
| 5 | 大正 | 18・三六・a | 北京 | 5・二六五―二―二 |
| 6 | 大正図 | 2・三八四以下 | | |
| 7 | 拇尾祥雲氏 | 秘密事相の研究 | 四五八、真言は | 大正 18・ |
| | | 二八・a | | |
| 8 | 大正 | 18・一五六・b | 18・一一八・a | |
| 9 | 大正 | 18・一七・a | | |
| 10 | 大正 | 20・二七一・a | | |
- （昭和四十三年度文部省科学研究費奨励研究に基く研究成果）